

## 平成29年の梅雨入り・明けと梅雨の時期の特徴について

平成29年の梅雨入りは、かなり遅い地方が多かった。東北南部の梅雨入りは6月30日ごろで、1951年の統計開始以降最も遅かった。

梅雨明けは、関東甲信以西では早い地方が多く、中国地方と関東甲信地方ではかなり早かった。一方、北陸地方では遅かった。また、東北南部、東北北部では、梅雨明けの時期を特定できなかった。

梅雨の時期の降水量（6～7月。沖縄と奄美は5～6月。）は、関東甲信以西では少ない地方が多く、東海地方ではかなり少なかった。一方、北陸地方、東北南部、東北北部では多かった。

平成29年の春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨の時期の特徴のまとめを行いました。

平成29年の各地方の梅雨入り・明けと梅雨の時期の降水量は別紙のとおりです。梅雨の時期の気圧配置の特徴は、以下のとおりです。

- ・6月は、太平洋高気圧の北への張り出しが平年より弱く、梅雨前線は平年より南の日本の南海上に本州から離れて停滞することが多かった（図1）。このため本州付近は梅雨前線の影響を受けにくく、梅雨入りがかなり遅い地方が多かった。東北南部の梅雨入りは6月30日ごろで1951年の統計開始以降最も遅かった。

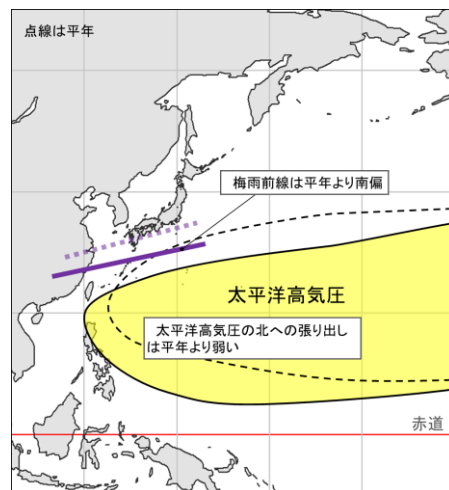


図1 2017年6月上・中旬の気圧配置の模式図

- ・7月に入ると、太平洋高気圧の北への張り出しが強まり、梅雨前線は平年より北の日本海に停滞することが多かった（図2）。このため、梅雨明けは九州南部では平年並だったが、九州北部から東海地方では平年より早く、中国地方ではかなり早かった。関東甲信地方では7月上旬に高気圧に覆われ、晴天が続いたため、平年よりかなり早い梅雨明けとなった。北陸地方と東北地方は、7月中旬～下旬は梅雨前線の影響を受けやすかったため、北陸地方の梅雨明けは平年より遅い8月上旬になった。

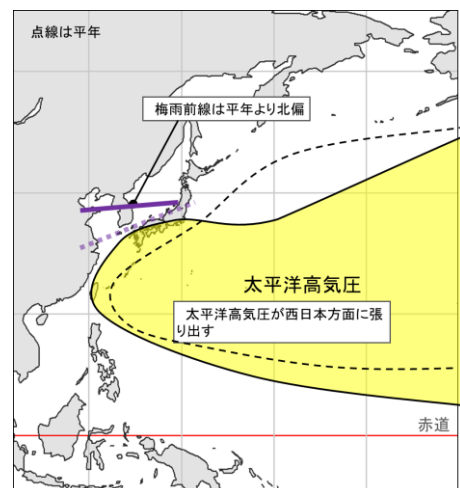


図2 2017年7月上・中旬の気圧配置の模式図

- ・8月に入ると、オホーツク海高気圧が発生し（図

3)、北陸地方や東北日本海側では晴れる日が多かったが、東北太平洋側では冷たく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、8月中旬まで不順な天候が続いた。このため東北北部、東北南部の、梅雨明けは特定できなかつた(東北地方で梅雨明けが特定できなかつたのは2009年以来で、1951年の統計開始以降東北南部では5回目、東北北部では6回目。)

- 梅雨前線は、6月に平年より南の日本の南海上に本州から離れて停滞することが多く、7月は一転して平年より北の日本海に停滞することが多かったため、東日本太平洋側と西日本では梅雨前線の影響を受けることが少なく、梅雨の時期の降水量が少ない地方が多く、東海地方ではかなり少なかった。ただし「平成29年7月九州北部豪雨」など大雨となったところがあった。北陸地方と東北地方では、7月下旬は梅雨前線の活動が活発で、秋田県や新潟県など各地で大雨となり、梅雨の時期の降水量は平年より多かった。

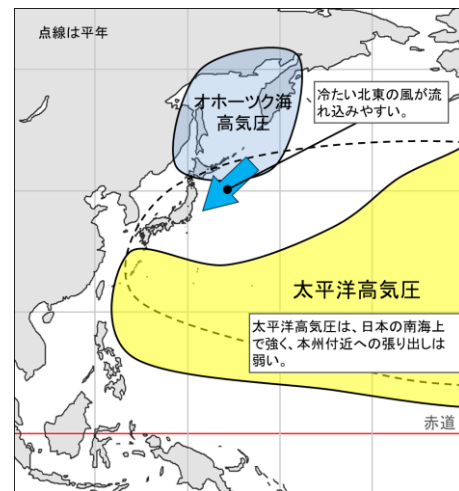


図3 2017年8月上・中旬の気圧配置の模式図

本件に関する問い合わせ先：

地球環境・海洋部気候情報課 (代表) 03-3212-8341 (内線) 3154

表 各地方の梅雨入り・明けと梅雨の時期の降水量

| 地方名  | 梅雨入り(注1)    | 平 年     | 梅雨明け(注1)    | 平 年     | 梅雨時期<br>の降水量<br>平年比と<br>階級<br>(注2) |
|------|-------------|---------|-------------|---------|------------------------------------|
| 沖 縄  | 5月13日ごろ(+)  | 5月9日ごろ  | 6月22日ごろ(0)  | 6月23日ごろ | 105%(0)                            |
| 奄 美  | 5月13日ごろ(0)  | 5月11日ごろ | 6月29日ごろ(0)  | 6月29日ごろ | 86%(-)                             |
| 九州南部 | 6月6日ごろ(+)   | 5月31日ごろ | 7月13日ごろ(0)  | 7月14日ごろ | 91%(0)                             |
| 九州北部 | 6月20日ごろ(+)* | 6月5日ごろ  | 7月13日ごろ(-)  | 7月19日ごろ | 67%(-)                             |
| 四 国  | 6月20日ごろ(+)* | 6月5日ごろ  | 7月13日ごろ(-)  | 7月18日ごろ | 81%(-)                             |
| 中 国  | 6月20日ごろ(+)* | 6月7日ごろ  | 7月13日ごろ(-)* | 7月21日ごろ | 77%(-)                             |
| 近 畿  | 6月20日ごろ(+)* | 6月7日ごろ  | 7月13日ごろ(-)  | 7月21日ごろ | 81%(-)                             |
| 東 海  | 6月21日ごろ(+)* | 6月8日ごろ  | 7月15日ごろ(-)  | 7月21日ごろ | 67%(-)*                            |
| 関東甲信 | 6月7日ごろ(0)   | 6月8日ごろ  | 7月6日ごろ(-)*  | 7月21日ごろ | 71%(-)                             |
| 北 陸  | 6月25日ごろ(+)* | 6月12日ごろ | 8月2日ごろ(+)   | 7月24日ごろ | 133%(+)                            |
| 東北南部 | 6月30日ごろ(+)* | 6月12日ごろ | 特定しない       | 7月25日ごろ | 110%(+)                            |
| 東北北部 | 7月1日ごろ(+)*  | 6月14日ごろ | 特定しない       | 7月28日ごろ | 118%(+)                            |

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)\*：かなり遅い、(+): 遅い、(0)：平年並、(-)：早い、(-)\*：かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 全国153の气象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月。)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)\*：かなり多い、(+): 多い、(0)：平年並、(-)：少ない、(-)\*：かなり少ない、の階級区分を表す。

(注3) 階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

|         |        |     |       |
|---------|--------|-----|-------|
|         | 33%    | 33% | 33%   |
|         | 10%    |     | 10%   |
| 梅雨入り・明け | 遅い     | 平年並 | 早い    |
|         | かなり遅い  |     | かなり早い |
| 降水量     | 少ない    | 平年並 | 多い    |
|         | かなり少ない |     | かなり多い |